



# さん が

第 九七 号

平成 三十 年

西 暦 二〇一八年

春 彼 岸 三 月 号

京都市伏見区淀新町六一八一

TEL 〇七五-六三一-二二七二

FAX 六三二-五七二五

E-MAIL [sanga@tounji.net](mailto:sanga@tounji.net)

曹洞宗 東運寺

「願はくは花の下にて春死なん、  
そのきさらぎの望月のころ」

という、短歌があります。

平安時代終わり（源平合戦のころ）

に活躍した歌人の西行法師が、お釈迦

さまのご命日にちなんで詠んだものと伝えられていま

す。きさらぎの望月とは旧暦の二月十五日。新暦では四

月初めくらいに当たるそうです。花とは桜のことです。



この歌を見ると、伊丹十三監督の映画『お葬式』を思  
い出します。主人公役の山崎努さんが、火葬場で舞う桜  
吹雪を見て、「オレは春に死ぬことに決めたよ」と言う台  
詞があったからです。

ところで、現実の場面で私が耳にするのは、「この季節  
に死にたい」ではなく、「まわりに迷惑をかけないで死に



たい」という言葉です。これは美徳なのか、または過ぎ  
た遠慮なのか、それぞれ事情はあることでしょう。

おまいり先で、「和尚さん、できれば子どもに迷惑かけ  
て死にたくないねえ」とおっしゃる方に、

「ああ、私もそう思います。でも、迷惑かけないで死  
ぬのは、難しいですよ」と返事をする、相手も苦笑  
してしまわれることもあります。

現代では、親しい間柄の中でも、「迷惑をかけない」こ  
とが求められすぎているような気がします。ですが、「迷  
惑をかけたくない」と口にする人も、それが不可能であ  
ることに、うすうすお気づきなのだと思うのです。

とりあえずは、「あなたになら迷惑をかけられてもい  
い」関係を、お互いに築こうとすることは、美徳といえ  
るでしょうか。

## 「笥（かけひ）」が新しくなりました

笥とは、庭の手水鉢に水を注ぐ、竹の管のことです。ずいぶんと古くなって、倒れてしまったものもあり、このたび、新調してもらいました。竹の色は美しく、見ても凛とする気持ちになります。



東運寺には四カ所に笥があります。  
どこにあるのか、ぜひ探してみてください。

## 「薬師堂の屋根」修繕が進んでいます

昨秋の台風で壊れ、養生されていた、薬師堂の屋根工事が再開しています。完成すれば、落ちた部分は安定のために取りのぞかれ、てっぺんの瓦は補修されて、新品のような輝きを取り戻します。

お彼岸までには終了する予定です。工事中は、お参りの皆さまにご不便をおかけし、大変申し訳ありませんでした。



先月は、テレビにかじりついていた方も、多いのではないのでしょうか。平昌オリンピックピックでの、選手たちの活躍には、心を深く動かされました。

挫折や重圧を跳ね返す彼らの力は、どこからもたらされるのでしょうか。はじめに想像するのは、不断に行われる練習の積み重ねから来るものです。「負けたら終わじゃない、やめたら終わりなんだ」という言葉も聞きます。その信念が、みごとに表れるのが、こういう舞台なのでしょう。



今冬の寒さはいかがでしたか。長く続く冷えもさることながら、あの、とんでもない豪雪には目を疑うばかりでした。おなじ日本なのに、どうしてここまで差があるのか。複雑なお気持ちで、お過ごしになったのではないかと思います。

福井県では一三〇センチを超えたとのこと。大山永平寺でも、行持を縮小して、修行僧が雪かきに追われたそうです。

雪国がはやく暖かくなって、雪解けがうまく進むように、願うばかりです。



↑ ホームページこちらからも